

研究紀要

第21集

授業における自己評価システム構築と 環境設定に関する実証的研究

2015年7月

弘前大学教育学部附属特別支援学校

はじめに

校長 岩井 康 頼

日本の先生は世界一忙しい。経済協力開発機構（OECD）の調査でそんな結果が出ています。本来教師の本分は「教えること」。なるべくそれに専念してもらうことが生徒や保護者の利益にもなります。先生が忙しくなる背景には、学校の担う期待と役割が肥大化していることにその原因があります。また、学力のみならず震災後は、学校が安心の居場所にもなるよう期待され、その防災拠点としての役割も重くなってきています。膨らむ役割と責任、先生方の頑張りとそれにかかるストレスは、民間企業と比べても引けをとらないほど多いと思われまます。教育に関わる教員には、まずご自身の身体と心を厭い教育・研究に励んでいただきたいと存じます。

さて、附属学校園は「大学・学部の教育研究への連携協力」そして「教育実習の実施」という使命があります。それに加えて学部及び地域教育機関との組織的基盤として開発的・実験的な教育内容を研究・検証する研究拠点校、いわゆる地域のモデル校としての機能を充実させ先進的かつ先導的な役割も担っています。

本紀要は、弘前大学教育学部附属特別支援学校で平成25年度にテーマを「働くための環境設定とシステム作成の試み」として研究に取り組んできた成果を活かし、26年度～27年度のテーマを「授業における自己評価システム構築と環境設定に関する実証的研究」として研究に取り組んできた成果をまとめたものです。本研究を進めるにあたり、26年度に国立特別支援教育総合研究所主任研究員の小澤至賢氏を講師として年2回招聘し、自己評価に関連した講演や助言をいただき、そして本大学教員の指導を賜りました。

本テーマにある「環境設定」とは児童生徒自身の自己評価・自己確認を行うための環境を整えるという意味です。小学部から高等部までの児童生徒が学校生活の中で自分自身に目を向けるために、一人一人に応じた環境を教師が整えることで自己理解が推進され、それが人間としての自己形成につながるものと考えています。

平成27年7月には、公開研究発表会を開催する運びとなりました。この発表会は、本校の教員たちが実践をめぐって切磋琢磨した、ささやかな成果を発表する場です。皆様方のご批評、ご助言によりさらに実践力を高め、障害のある子どもたちの発達を支援するために返していきたいと思っております。そして、本研究の成果は、直接的には特別支援学校、小学校・中学校の特別支援学級において活用されることを期待しています。

教育研究開発の推進につきまして、いっそうのご指導、ご助力を賜りたくお願い申し上げます。

目 次

はじめに	1
I これまでの研究について	3
II 今回の研究について	3
1 研究主題について	
2 研究仮説について	
3 研究の目的	
4 研究計画	
5 研究の内容	
III 各学部の研究	9
小学部	9
中学部	37
高等部	53
IV 研究のまとめ	71
おわりに	75
研究同人	76

お わ り に

副校長 川 口 晃 世

子どもたちの「生きる力」を一層育むことをめざした学習指導要領の改訂からしばらく経過した今、学校は新学習指導要領の趣旨をより具体化し、充実させる段階に入っているといえます。

本校でも、附属校としての使命を踏まえつつ、子どもたちの自立と社会参加をめざした創意工夫を凝らした教育活動を展開することが期待されています。

そうした状況の中で、平成26・27年度の2カ年にわたり「授業における自己評価システム構築と環境設定に関する実証的な研究」という研究主題で、校内研究に取り組み、本紀要の発刊とともに、公開研究会を開催できることは、誠に喜ばしいことです。

さて、本校の教育活動に関する話ですが、今年5月に、途中校舎の改修工事等もあり、3年ぶりに念願のグラウンドでの運動会をようやく実施することができました。競技の中で、遅れがちな友だちの手を途中まで引いて、それでも最後は負けじとゴールを目指したり、あるいは、綱引きでの勝利のため一致団結を呼びかけたりなど、子どもたちの生き生きと活動する姿に観客の皆さんから温かい拍手が惜しみなく送られていました。子どもたちは、日々の学習や運動会の練習の機会等を通して、他をいたわる優しさや勝負にかける意欲などをいつの間にか身につけ、何よりも一人一人が運動会を楽しんでいました。

運動会での子どもたちの姿から、研究の取り組みから期待される授業の中での子どもたちの姿を思い描いてみました。知識や理解、技能など評価の観点による力を身につけることは、もちろん重要ですが、子どもたち一人一人がその子なりに学習内容を意欲的に理解しようと努め、何よりも仲間とともに学ぶことを楽しんでいる姿こそが望ましいと考えます。日々のそうした姿の積み重ねが、「生きる力」の育成に繋がるものと信じています。今回の「授業における自己評価システム構築と環境設定に関する実証的な研究」は、そうした子どもの姿を思い描きながら、全校で進めてきたと思っています。

結びに、本研究の推進にあたりまして、弘前大学教育学部特別支援教育研究室の皆様のご指導とご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。それとともに、今回の研究に係る実践は、始まったばかりです。今後とも、本校の子どもたちの自立と社会参加に向けて努力してまいりますので、皆様方の忌憚のないご意見とご教示をお願い申し上げます。

研 究 同 人

校 長 岩 井 康 頼
副 校 長 川 口 晃 世
教 頭 古 木 名 博

小 学 部	中 学 部	高 等 部
佐 藤 忠 全	木 村 薫	石 田 千 里
谷 地 美 奈 子	山 本 恵 利 子	成 田 淑 美
米 持 里 美	◎相 馬 力	小 田 桐 敬
山 口 由 美	工 藤 美 聡	矢 口 智 洋
天 野 優 美	小 枝 洋 平	今 夏 希
渡 邊 直 仁	鈴 木 匡 芳	白 藤 剛
磯 崎 み ち る	坂 本 裕 子	栩 内 伸 子
齋 藤 陽 一	奈 良 岡 恵 美 子	森 修 子
今 亜 里 沙	宮 本 美 穂	梁 川 道 輔
菊 地 純 子	田 中 つ ぐ み	笹 森 由 美 子
西 谷 倫 子	淋 代 香 織	

◎研究部主任

研 究 紀 要

第 2 1 集

授業における自己評価システム構築と
環境設定に関する実証的研究

平成 2 7 年 7 月 発 行

発 行 弘 前 大 学 教 育 学 部 附 属 特 別 支 援 学 校

〒036-8174 青森県弘前市大字富野町 1-76

TEL 0172-36-5011 FAX 0172-36-5012